



『東北圏だより』

東北復興ビジネスマッチングセンター

仙台市

東北地域においては、これまで、地場の良質な資源や食材、技術などをもととした、様々なビジネスが生まれ、優れた製品・サービスを多く生み出し、各企業ともその取引先を拡大してきました。

しかしながら、東日本大震災以降はその影響等で販路が失われ、売り上げが低迷している中小企業等も少なくありません。そこで、強かに販路拡大の支援を推進するため、昨年6月に公益財団法人仙台市産業振興事業団(仙台駅前AERビル7階)において「東北復興ビジネスマッチングセンター(東北BMC)」事業をスタートさせました。東北BMCにはものづくり企業、IT企業等、地域の優れた製品・サービスをバイヤーに直接売込み等を行う、ビジネスマッチングの専任スタッフも配置し、よりきめ細かに企業のビジネスチャンス創出に向けた支援を行っております。

東北BMCの特色としては、支援対象企業を仙台地域だけでなく、東北全体の企業としており、営業のノウハウを持つ民間企業出身のスタッフが、自身の知見やネットワークをフル活用して、よりきめ細かい支援を行っております。



▲プリザーブドフラワー講習会
(24年12月から25年3月まで4回開催)

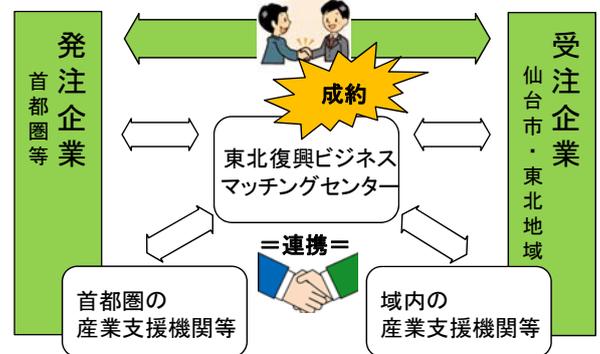
平成24年度の支援実績としましては、年度途中からの事業にもかかわらず目標としていたマッチング100件を上回る119件の販路拡大のお手伝いをさせていただきました。

具体的には、津波被害を受けた沿岸部の水産加工メーカーや山元町のイチゴ農家など幅広い分野の支援を行ったほか、仮設住宅に入居する被災者が制作したプリザーブドフラワーの販売先の調整を行うなど、多方面にわたる支援を行いました。

具体的には、津波被害を受けた沿岸部の水産加工メーカーや山元町のイチゴ農家など幅広い分野の支援を行ったほか、仮設住宅に入居する被災者が制作したプリザーブドフラワーの販売先の調整を行うなど、多方面にわたる支援を行いました。

引き続き東北地域の被災した企業の販路拡大の支援を行ってまいりますので、お気軽にご相談ください。

ホームページはこちら <http://www.siip.city.sendai.jp/n/2012/0604/02.html>



第24回 東北圏広域地方計画協議会 検討会議 幹事会の開催報告

去る11月21日(木)に第24回東北圏広域地方計画協議会検討会議幹事会が開催されました。今回の幹事会の主な内容は、これまでの経緯、東北圏広域地方計画フォローアップの再開、広域連携プロジェクトチームの設立等の説明というものでした。

最初に、昨年12月以来の幹事会だったこともあり、これまでの経緯が報告され、次に国土交通省広域制度企画室長から国土強靱化等の動向についての説明がありました。続いて、今後の進め方の方針として以下の2点が提案され、構成機関の了解を得られました。

- ・毎年度実施することになっているフォローアップを現計画ベースで再開
- ・「東日本大震災を踏まえた検証・点検結果による12の課題」について、フォローアップの中で進捗状況を把握

その後、フォローアップに係る進捗状況や12課題のモニタリング指標についての依頼、広域連携プロジェクトについて既存の会議や協議会等を活用してプロジェクトチームを設立したい旨の説明があり、最後に、今後のスケジュールについて確認されました。

構成機関のみならず、フォローアップやプロジェクトチームについて作業をお願いしております。どうぞ、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。



▲幹事会の様子

去る11月22日東北で4番目の市として、歴史的風致維持向上計画が認定されました。

鶴岡市は庄内平野南部に位置し平成17年に1市4町1村が合併し、朝日連峰から日本海まで広がる東北で最も広い市域面積の市となりました。庄内藩の城下町として発展してきた旧鶴岡市中心市街地をはじめ、合併した旧市町村はそれぞれ特色ある歴史と伝統・文化のもと、豊かな地域を形成しており、総合計画にも「歴史や伝統・文化を大切にしたい誇りの持てる地域づくり」「地域の個性を生かした景観形成」を掲げまちづくりに取り組んできました。

計画には8つの歴史的風致とこれを活かした歴史まちづくりを進める3つの重点区域を定めています。ひとつ目の重点区域「①鶴岡公園とその周辺地区」は鶴ヶ岡城三の丸を中心とした区域で、江戸時代から現代に至るまで優れた建造物が残るなど城下町の町割りを基層とした各時代の歴史・文化が積層しながら現在も様々な伝統的な人々の営みが息づいている歴史文化ゾーンとなっています。「②羽黒手向地区」



①旧西田川階役所と大名行列



②桜小路の宿坊・冠木門

は古くから修験の山として栄えた出羽三山の門前町で、宿坊には全国各地に組織された「講中」の人々が訪れていました。現在でも30ほどの宿坊が、独自の祭礼と食文化を継承しながら活動を続けており、冠木門や軒に飾られた魔除けの引き綱など独自の歴史的風致を形成している区域です。「③羽黒松ヶ岡地区」は戊辰戦争後に旧庄内藩土の手による開墾場で、当時の蚕室群や本陣などの歴史的建造物が残され国指定の史跡となっています。この開墾場の土地は開墾士一同の共有のものとなされ、共同の精神に基づく様々な作業（総出作業）や行事が行われ、現在でもその精神と総出作業は引き継がれています。

歴史的風致維持向上計画は、本市の優れた歴史的資源をあらためて整理するとともに、人口減少、少子高齢化が進む地方都市が持続可能な魅力あるまちづくりを進めていくためのひとつの軸となる計画となるものです。また、この計画は行政だけの計画とすることなく、市民や地域の協力を得ながら共に進めていくことが大切であると考えており、啓発にも力を入れていかなければなりません。

計画の詳細

<http://www.city.tsuruoka.lg.jp/O60100/page7146.html>



③松ヶ岡開墾場蚕室

編集後記

「東北復興ビジネスマッチングセンター」は、地域企業の取引拡大や競争力強化を図り、次世代の起業家の育成を目的としています。復興が進む中、仙台市の経済の安定的成長に繋がっていくことを望むものです。また、歴史的風致維持向上計画は、東北では弘前市、白河市、多賀城市が認定されています。今後、歴史的な資産を活用したまちづくりの実施を官民連携して進めていく必要があります。最後に東北圏広域地方計画のフォローアップ（平成25年度対象）を平成26年度より再開していきます。よろしく御協力をお願いします。

『東北圏だより』に掲載する広域地方計画に関連する情報をお寄せ下さい。また、『東北圏だより』へのご質問、ご意見、ご要望等についても結構です。お気軽に次のアドレスまでメールでお寄せ下さい。

メールアドレス：kou-suishin2@thr.mlit.go.jp